

中期課題と主な取り組み

健康経営で解決したい経営上の課題：従業員のパフォーマンス向上

健康経営で解決したい経営上の課題

少数精鋭でのかけがいのない従業員に心身ともに健康で長く勤務してもらうことが、安定的な事業活動の推進や成長し続ける組織形成の大きな課題である。

健康経営の実施により期待する効果

従業員が働きがいをもって仕事に取り組み、常に高いパフォーマンスを発揮するとともに、当社に定着する状態を目指す。

従業員の健康課題と目標①（2024年度～2027年度）

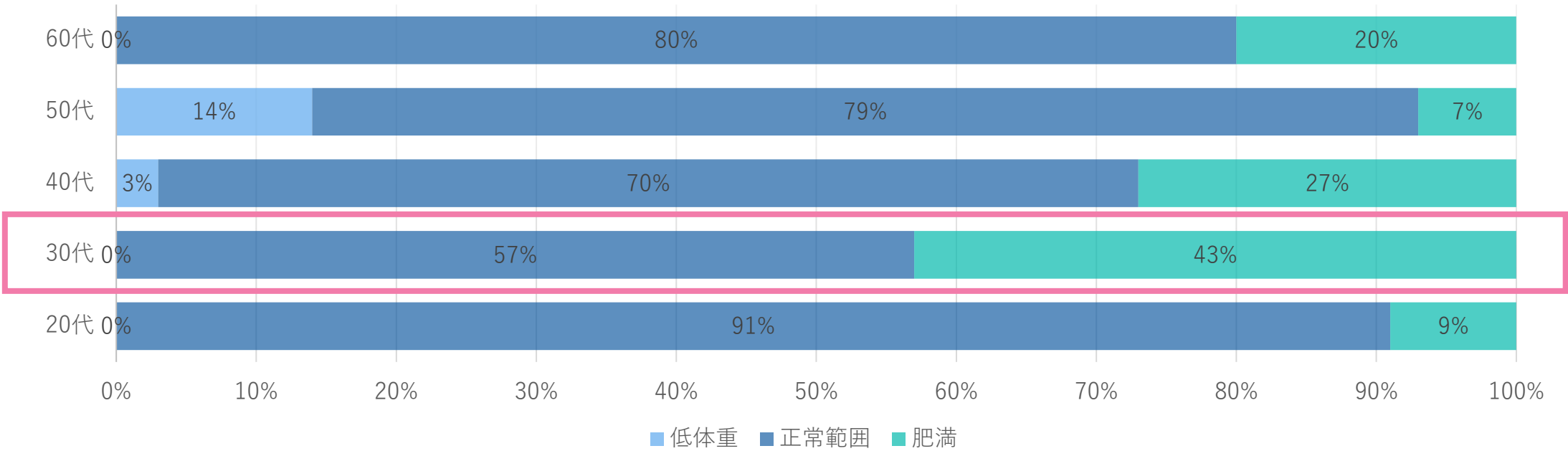
重点課題	健康状態に関わらず全従業員に対する疾病の発生予防
課題内容	肝機能もしくは血中脂肪に改善の必要性がみられる従業員が全体で2割以上おり、かけがえのない存在である従業員の将来にわたる健康維持向上が必要である。
課題に関する現状	所見ありの個数上位3つ：血中脂肪(18人)、肝機能(16人)、尿酸(糖)(11人) 血中脂肪と肝機能どちらかに該当（もしくは両方に該当）する人数：28人 ⇒全数131人から算出すると 21.4% ⇒5人に1人以上が血中脂肪・肝機能にリスクあり。 ⇒血中脂肪・肝機能の所見ありの人は各年代に存在＝全世代へのアプローチ必要
目標	主要健診2項目のリスク割合の減少 目標値：所見あり人数 20%未満 達成年度：2026年度

従業員の健康課題と目標②（2024年度～2027年度）

重点課題	従業員の生産性低下防止・事故発生予防
課題内容	業務の性質上、長時間のデスクワークとなり、特に働き盛りの30代では肥満の割合が他の年代に比べて高いことから、適切な運動機会を設け、心身ともの健康を向上する必要がある。
課題に関する現状	TJKの結果によると、30代の肥満が 43% （TJK平均29%）と他の年代に比べると高い。一方、50代・60代の肥満率が低いことから、30代・40代にアプローチが必要。コロナ禍による行動減少、SE職における長時間デスクワーク、在宅勤務の増加による通勤時の歩数減少などが考えられる。
目標	30代・40代の肥満率の減少 目標値：30代と40代の肥満率 30% 以下 達成年度：2027年度

健康診断結果の参考データ（肥満度）

年齢別検査結果



血中脂質（コレステロール&中性脂肪）、肝機能、肥満
→どれも運動と食事で行うことができるもの！

課題に対する具体的な取り組み（2024年度）

健康課題①②ともに増加傾向にあるため、目標値を設定し以下の取り組みを実施

(a) 産業医と総務人事グループより従業員へメール送信

再検査や精密検査・特定保健指導・BMI25以上の対象者に産業医（ベスリクリニック）から勧奨メールの送信。また、それとは別に総務人事からも血中脂肪・肝機能が基準値から外れている対象者へ注意喚起のメールを送信。

(b) 豆乳・トマトジュースの配布

豆乳：悪玉コレステロールを減らす
トマトジュース：善玉コレステロールを増やす

(c) 健康促進のため様々な社内イベントを開催

皇居マラソン(6回)、walkingイベント(団体2回、個人3回)、綱引き(1回)、運動会(1回)、ラジオ体操(3回)

今後の改善・2025年度重点取り組み

健康課題の実績と今後の改善

- ①血中脂肪・肝機能のリスク割合：2023年度 21% → 2024年度 51.9%
- ② 30代・40代の肥満率：2022年度 43% → 2023年度 44%

血中脂肪・肝機能・肥満度の割合の減少を目標に取り組みを実施。しかし、次年度の数値は①②共に増加する結果となり施策の再検討を行い、今後の改善として、食習慣により注視した取り組みを検討、**専門家による食事指導**を実施し、生活習慣病・未病を防ぎ、健康診断結果を良好数値に引き上げ、肥満・脂質異常者KPIを実現していく。

その他の改善・目標

・産業医・保健師委託の再検討

社員個人の健康上の悩みや課題を相談しやすい「顔の見える相談者」を目指し、体制の見直しや委託先を再検討

・仕事と介護の両立支援

ビジネスケアラー（介護をするビジネスパーソン）に対する経営者・管理職の理解促進・情報提供